



### ○消化器内科・肝臓内科の概要

#### 1. 消化器内科・肝臓内科の特色

当科の専門領域は、消化管、肝臓、胆道、膵臓疾患である。平成 27 年度の入院患者数は 1,473 例、外来患者数は 42,960 例の診療を行った。月から土まで消化管、肝胆膵疾患の全ての領域に対応できる体制を整えており、多彩な消化器疾患症例の診療に携わることができる。また、常時時間外、救急来院患者に対応する体制をとり、内科一般の疾患もその種類を問わず診療に応じているため、プライマリケアの十分な経験が可能である。後期研修では消化器疾患患者の診察方法、当該疾患に必要な診断治療の手技を指導医、担当医の指導のもとに修得するが、研修期間が 2 ヶ月以上の場合には担当患者一人で受け持ち、指導医がサポートすることで責任を持って診療に参加する機会も設けている。また、重症症例の全身管理や専門的な検査治療にもチームの一員として積極的に参加するように配慮している。

埼玉医科大学病院は、平成 18 年に埼玉県の肝疾患診療連携拠点病院に指定され、県全体から難治性の急性、慢性肝疾患症例が集まるため、劇症肝炎や非代償性肝硬変など全身管理が必要な重症疾患の集学的治療を研修することができる。また、肝臓に関して肝動脈化学塞栓療法およびラジオ波焼灼療法を多数例に実施しており、これら手技の実習も可能である。また、消化管疾患では消化管出血、炎症性腸疾患、上下部消化管ポリープなどの症例が豊富で、これらに対する内視鏡治療も経験することができる。一方、胆道系および膵臓疾患では、急性膵炎など重症疾患の全身管理を習得できるとともに、消化器・一般外科と連携して実施している内視鏡治療にも参加することが可能である。

消化管癌の内視鏡治療及び胆道系、膵臓系腫瘍疾患の外科的治療は、主に国際医療センターが担当している。後期研修では希望者にはこれら治療への参加の機会を設けることも可能である。

#### 2. 診療実績

外来診療単位：35 単位／週、外来患者数（休日を含む）42,960 人（初診 2,028 例）

病床数：53 床、入院患者数 1,473 人

##### <疾患別症例数>

##### (1) 肝疾患 677 名

急性肝炎 11 名、劇症肝炎 2 名、慢性肝炎 33 名、肝硬変症 86 名、肝細胞癌 393 名、アルコール性肝障害 36 名、自己免疫性肝疾患 57 名、薬剤性肝障害及・脂肪性肝疾患・その他 47 名

##### (2) 胆道・膵疾患 42 名

胆嚢炎・胆管炎 8 名、胆嚢癌・胆管癌 1 名、急性膵炎 21 名、慢性膵炎 6 名、膵癌 2 名、その他 4 名

##### (3) 消化管疾患 748 名

食道胃静脈瘤・異所性静脈瘤 71 名、食道疾患・マロリーワイス症候群 24 名、急性胃・腸炎 24 名、胃十二指腸潰瘍・出血性胃炎及び腸炎 172 名、胃ポリープ及び胃癌 21 名、大腸ポリープ及び大腸癌 271 名、潰瘍性大腸炎 45 名、クローン病 53 名、イレウス 37 名、その他 30 名

##### (4) その他の消化器系以外の疾患 62 名

##### <術式別治療件数>

肝動注化学塞栓療法(TACE)、肝動脈化学療法(TAI)	269 件
肝悪性腫瘍のラジオ波焼灼療法(RFA)	70 件
内視鏡的止血術(上部消化管・下部消化管)	152 件

内視鏡的粘膜切除術 (EMR), 内視鏡的粘膜下層剥離術 (ESD)	234 件
食道胃静脈瘤の結紮術 (EVL), 硬化療法 (EIS)	133 件
内視鏡的胃瘻造設術 (PEG)	13 件
内視鏡的狭窄部拡張術	3 件
内視鏡的異物摘出術	31 件
バルーン下逆行性経静脈的塞栓術 (B-RTO)	16 件
その他 含めて合計	925 件

地域医療活動内容：常時時間外，救急来院患者に対応する体制をより，入院患者の約 30%が時間外，救急外来由来である。緊急内視鏡検査・治療を含め，医局員一丸となり対応している。

### 3. 指導責任者と診療スタッフ

責任者：持田 智 教授（日本内科学会指導医・認定医，日本肝臓学会指導医・専門医，日本消化器病学会指導医・専門医）

スタッフ：富谷 智明 教授（日本内科学会指導医・認定医，日本肝臓学会指導医・専門医，日本消化器病学会指導医・専門医）

今井 幸紀 准教授（日本内科学会指導医・認定医，日本消化器病学会指導医・専門医，日本消化器内視鏡学会指導医・専門医，日本カプセル内視鏡学会指導医・専門医）

中山 伸朗 准教授（日本内科学会指導医・認定医，日本肝臓学会専門医，日本消化器病学会専門医）

稲生 実枝 准教授（日本内科学会指導医・総合内科専門医，日本肝臓学会専門医，日本消化器病学会指導医・専門医，日本消化器内視鏡学会指導医・専門医，日本老年医学会指導医・専門医）

菅原 通子 講師（日本内科学会指導医・認定医，日本肝臓学会専門医，日本消化器内視鏡学会指導医・専門医）

岡 政志 教授（日本内科学会指導医・認定医，日本消化器病学会指導医・専門医，日本消化器内視鏡学会指導医・専門医，日本消化器がん検診学会認定医，日本消化管学会認定医，日本ヘリコバクター学会認定医）

新井 晋 講師（日本内科学会認定医，日本消化器内視鏡学会指導医・専門医，日本消化器病学会専門医）

助教 17 名（日本内科学会認定医 9 名，日本消化器病学会専門医 6 名，日本消化器内視鏡学会専門医 5 名，日本肝臓学会専門医 5 名）

### 4. プログラムの目的と特徴

実地医療の現場で仕事ができる消化器内科医を養成することを目標としている。そのため，8年間の卒業教育課程を用意している。日本消化器病学会，日本肝臓学会，日本消化器内視鏡学会，その他関連学会の専門医制度により消化器専門医の条件として規定されている「一般的事項」と「疾患の経験」は当科での日常臨床とカンファレンスなどで研修期間中に十分に満たされることから，入局後は主に「診断，治療手段」で指定された過程を組み込んでいる。また，消化器外科やその他の科との合同カンファレンスを行うことにより，広い視野での理論的な考え方を学べるように指導している。実際の手技として役立つ超音波検査及び内視鏡検査のシミュレータが充実しており，研鑽を積んだ後，受け持ち患者に対し，指導医及び担当医の指導の下，検査・治療を実施出来るようにしている。

## 5. 取得可能な資格

日本内科学会認定医（3年目）・専門医（6年目），日本肝臓学会専門医（入会から5年目），日本消化器病学会専門医（入会から5年目），日本消化器内視鏡学会専門医（入会から5年目），日本超音波医学会専

門医（入会から5年目），日本消化器がん検診学会認定医，日本消化管学会専門医，日本ヘリコバクター学会認定医，日本カプセル内視鏡学会専門医，日本老年医学会専門医

## 6. 連絡先

研修医長：今井幸紀（PHS：9404），病棟医長：安藤さつき（PHS：9008）